

## 第2905回例会 令和5年9月14日(木)

出席委員会委員長	池田 榮三
会員総数	20名
本日の出席者(免除者)	13名(3名)
本日の出席率	68.4%

### 会長あいさつ

会長 鳥居萬里 君

青山周平様、奥様、秘書の方ようこそ西尾一色RCにお越しいただき有難うございました。今日は国政の課題等々について卓話をよろしくお願ひ申し上げます。

我がクラブ60周年記念旅行の際には国会議事堂のなかを色々ご案内いただき大変お世話になりました。今国政を見渡すと、防衛問題、原発エネルギー政策、少子高齢化問題、外交問題、環境問題、経済問題等々と多くの問題を抱えております。特に我々経済人は景気とか金融関係に関心の行くところです。最近ではテクノロジーにおいて、AIによるDX、チャットGPT、自動車関連ではEV化、自動運転他、目まぐるしく技術革新が起こっているところです。特に私は、TURING(株)の自動運転に注目していますが関心のある方はHPをご覧ください。技術革新の30年後の世界がどのようになっているか見てみたい気はいたしますが・・・。

青山議員におかれましては色々ご教授いただき、そして今後ますますご活躍されることをご祈念申し上げて挨拶とさせていただきます。

追伸 文部科学副大臣ご就任まことにおめでとうございます。

### 今週のスマイル

親睦委員長 渡邊 徹 君

鳥居萬里君 青山周平先生、記念旅行の際は大変お世話になりました。本日はよろしくお願ひいたします。

神谷 林君 青山様の話、楽しみに聞かせてもらいます。

早川比呂太君 青山議員、国会議事堂ではお世話になりました。本日はよろしくお願ひします。

鈴木茂朗君 青山周平様、奥様、西尾一色RCへようこそ。本日の卓話をよろしくお願ひいたします。

牧野美恵君 青山先生、本日は卓話ありがとうございます。楽しみにお聞きします。

田中三千雄君 青山様、本日よりお願ひします。

池田榮三君 青山周平様、本日の卓話楽しみに聞かせていただきます。ご苦労様です。

尾崎三枝子君 青山様、本日はよろしくお願ひ致します。

藤井知明君 青山様、卓話よろしくお願ひします。

渡邊 徹君 青山周平様、60周年の際は大変お世話になりました。本日はよろしくお願ひします。

10件 20,000円

## 本日の卓話

### 「国政の課題と今後の行方」

自由民主党 衆議院議員 青山周平 様



本日はこのような席にお招きいただきありがとうございます。私も岡崎南RCの一員でありますので、同じロータリアンとしてこの卓話に参加させていただきます。

国会見学の際は遠路東京までお越しいただき感謝申し上げます。

す。なかなか国会見学に来ていただいた方には中学校では経験できなかった、大人になって改めて行って建築の様子や中学の時には感じなかった重厚な建物、すごい建物だと感じていただけたと思います。建築を学ぶ上でも勉強になりますし、その中ですべての法律が作られる重要な場所ですので、是非大人の社会見学で来ていただけないかと思ひます。通り一遍等の国会見学ツアーに入ってしまうとあのような見学はできません。来ていただいて私たちが今行われている議論を含めてご説明ができるという大変ありがたい機会です。

鳥居会長のお話はまさに私が今日作ってきた内容そのままなんです。まずは国防が危機に瀕しております。北朝鮮から37回のミサイルが飛んできて緊迫した状態、それに対して防衛費を増額しなければならない、それとともに子育ての問題、新しい情報の中でなにが起きたかという、先週に1月～6月に生まれた子供の数が出まして37万人です。同じように生まれれば1年で74万人、2022年が77万人、2021年が81万人、このように劇的に減ってきています。国にとっての静かな有事と言われていいます。ロシア、北朝鮮の問題、台湾有事、これは目に見えた有事、それに対して人口がどんどん減ってくるのは静かな有事と言われていいます。この二つは大問題です。経済の問題、日本だけがこの30年間でデフレという経済の病にかかっています。まったく所得が伸びない、まったく売上げが伸びない、物価が下がるからいいと言ひだしてしまつた、これは大問題です。世界中で10年を超えてデフレを続けている国は日本だけです。日本がGDP世界第2位だった時代を皆さんご存じだと思ひます。ジュリアナ東京のお立ち台で踊っていた元気のいい時代です。日本は1997年からデフレに入りました。この時から日本のGDPは約550兆円、10%増えました。アメリカは2,000兆円です。この25年間で3倍です。中国は日本に追いついてきています。

人口減少ですが、昭和22年から24年の団塊の世代は異常に子供が生まれたわけですが、その団塊の世代がたくさん子供を生めば人口のピラミッドの不具合は修正されます。団塊ジュニアもたくさん子供を生んでくれました。3年間で800万人ですから年間平均270万人生まれています。今74万人ですから200万人多いわけです。団塊ジュニアの世代は600万人生まれています。団塊の孫が少ないんです。なぜ少ないかという、経済です。団塊の世代の方が子供を生むころ1970年頃は有効求人倍率

1.8倍です。失業率1%、会社に入ろうと思えば誰でも入れた時代、インフレの時代です。将来の見通しは明るかった時代。1995~2005年くらいにかけて、有効求人倍率0.48、2人に1人しか雇ってもらえないということです。就職留年という言葉がはやりました。就職できない人は大卒なのに派遣労働者、バイトで働く、そういう時代でした。そのような人達（団塊ジュニア）に子供を作れというのは酷な話です。この時の自民党政権がマクロ経済を失敗したことが少子化の原因です。反省をこめてそれを是正し、私たちの世代に残さないことが私たちの重要な役割です。

少子化の原因は経済です。この30年間の日本の経済の低迷こそ、まさに少子化を作った原因です。では日本は何を失敗したのか。経済対策を間違えました。私はこの7年間、マクロ経済の勉強会を国会議員100名ほどでしてきました。自民党の勉強会の中でミクロの経済、何かが起こったら中小企業対策をしよう、農業・漁協の対策をしようというのありましたが、マクロで日本経済の勉強は初めてと言っていたほどうっかりやってきました。さらにステイグリッツ教授というノーベル経済学賞をとったアメリカコロンビア大学の教授に私たちの勉強会にきていただき講演をいただきました。最初講演をリモートで頼んだら1時間1千万と言われました。さすがアメリカですね。「日本は債務を気にすることはない、積極財政をしなくて成長した国はありません、財政を国が使うことで民間を刺激しながら一緒に伸びていくということを各国はやっている」とおっしゃっています。随分財務省と言っていることが違います。若手を集めていますので、いきなり経済を変えることはできません。仲間と共に力をつけ、正しいマクロ経済運営に向けていかなければなりません。では何を間違ったのか。皆さん、インフレの時をずっと経験されてきました。日本はインフレを抑えるため、増税しました。税金を上げると市場からお金を吸い上げることができるので効果があります。インフレは需要に対し供給が足りない状態なので、生産性が向上し始めます。海外から労働者をいれます。こういうインフレ対策の処方箋です。規制緩和をすると生産能力が上がります。それによりインフレを抑えることができます。インフレの処方箋というのは規制緩和や民営化、政府においては増税・緊縮財政・政府の財政も絞る、こういうのはインフレ対策です。日本は経済対策=インフレ対策でした。1997年からデフレに入っています。需要は低くて供給が多いので値段がさがってしまう状況です。デフレの時には絶対にインフレ対策をしてはいけないのですが、低血圧の人に血圧を下げる薬を飲むようなものです。なぜこのようになったか？時代背景を読み解いていくとソビエト連邦の崩壊が1990年代初頭にありました。デフレに入った日本は競争主義をやめて社会主義的な動きをしなければならなかった。このつけを負ったのが私たち団塊ジュニアです。さらに製造業に派遣労働者が増え、正社員になれない人が増えました。その人達に結婚し子供を生めというのは酷です。

本日、今から夕方にかけて副大臣の呼び込みがありません。携帯が鳴ったらお話の途中でも電話に出させてください。私はラグビーをやっています、先日、国会議員

日本代表としてフランスへ行って参りました。途中、肩甲骨を骨折してしまいました。

みなさん、クレヨンしんちゃんをご存じですか。1990年代に作られたアニメですが、野原しんのすけ、父野原ひろし、安月給のサラリーマン、母野原みさえ、基本専業主婦、妹ひまわり、犬シロ、一戸建て、車一台所有しています。ひろしは安月給ですがローンを返し終わります。今の私たちからすると上流階級です。団塊世代には、これは普通感覚です。この時代から30年間マクロ経済に失敗し、日本をデフレにしてしまったことによって静かなる有事になっています。

サラリーマンの給料の平均はデフレに転落して以降上がっていません。積極的に財政を出し減税をし、競争を抑制し、出来る限り参入をさせないようにし、今ある会社を保護しなければならなかった。それを競争化に導いてしまった。これが大失敗でした。財務大臣の答弁に少子化だから日本の経済が伸びないとありますが、少子化でも伸びている国だらけです。韓国は日本の最低賃金を超えました。中国は毎年何%も成長していますが、日本より出生率は低いです。日本は少子化で、今後経済は暗いのかと言われるれば私は暗くないと思います。1万台自動運転ができれば1万人のバスやタクシーの運転手はどこに行くのか。その方達を違う労働に回せます。人がいるところといらぬところ、声をいかしていけば少人数であっても大きな対価を得ることができると私は思っています。

財務省のHPに載っていますが、日本政府は1,200兆円借金があり、600兆円弱の資産があります。純負債でいくとアメリカと変わりません。世界で行くと日本はそれほど財政は悪くないです。財政破綻はしません。

この先の日本の経済は明るいです。30年間デフレを続けてきたおかげでコロナで先進諸国はお金をたくさん使いました。使った結果イギリスはインフレが高すぎてあえいでいます。アメリカも高いです。日本はデフレだったのでちょうどコロナでお金を使ったおかげで積極財政になり今一番いい温度のインフレになっています。これに賃上げがついていけば給料も上がり物価も上がっていくというのが今年できかけています。これを2.3年続けていくことでマクロ経済でいうと日本は温かい状況にあります。行き過ぎないインフレ、ちょうどいいインフレ、輸入物価が上がっているのがガソリンなど海外から入ってくるものに対しては政府の補正予算で補助し、国内の需給ギャップによるデフレインフレに関してはしっかりと続けていくことが必要だと思います。

地方の成長こそ日本の成長です。この西尾・岡崎の経済を元気にしながらこれからも地元のために働いて参りたいと思います。本日はありがとうございました。

